



Title	参加型手法ポータルサイトの構築 : 「でこなび」利用の手引き
Author(s)	山内, 保典
Citation	Communication-Design. 2013, 9, p. 73-84
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25966
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

参加型手法ポータルサイトの構築： 「でこナビ」利用の手引き

山内保典（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター：CSCD）

Making a portal website for citizen participation: User guide for “DeCoNavi” (Deliberation and Collaboration Navigation)

Yasunori YAMANOUCI (Center for the Study of Communication-Design, Osaka University)

第4期科学技術基本計画では、「『社会とともに創り進める政策』の実現」という形で、科学技術政策の形成過程への市民を含む多様な立場の人々の参加が、今後の科学技術政策の基本方針として掲げられています。この基本方針の実現には、社会と科学技術の接点で生じたイシューについて、市民参加型で取り組んだ日本国内の実践事例と参加型手法を蓄積し、共有することが不可欠です。本稿では、こうした事例や手法を掲載したポータルサイト「でこナビ」について、その設置目的、設計コンセプト、コンテンツ、活用方法、展開の可能性を紹介します。本稿を通じて、より多くの皆さまに「でこナビ」を知って頂き、参加型実践をサポートするとともに、事例・手法に関する情報や改善コメントを頂きたいと考えています。

キーワード

市民参加、ポータルサイト、利用者用ガイド
citizen participation, portal website, user guide

1. はじめに

本手引きでは、参加型手法のポータルサイト「でこナビ」¹⁾ (<http://decocis.net/navi/>) (図1) について、その設置目的、設計コンセプト、コンテンツ、活用方法、展開の可能性を紹介します。2013年3月現在、「でこナビ」には、主に社会と科学技術の接点で生じたイシューについて市民参加型で取り組んだ日本国内の実践事例（43事例）と、そうしたイシューの解決に貢献するために国内外で開発された参加型手法（25手法）が登録されています。本手引きを通じて、より多くの皆さまに「でこナビ」を知って頂き、参加型実践をサポートするとともに、事例・手法に関する情報や改善コメントを頂きたいと考えています。



図1 「でこナビ」トップページ

2.

参加型手法のポータルサイト「でこナビ」の設置目的

2.1 実践者のサポート

科学技術やそれに関連する諸制度を社会に応用する場合に、その応用が社会に与える／与えている影響を調査する取り組みがあります。こうした調査により、問題を未然に防いだり、より応用の効果を高めたりすることが期待されます。

この影響調査やその結果に基づく意思決定を行うのは、主として科学者や政策担当者のような専門家です。しかし近年、社会に与える影響が大きい場合、影響の予測が困難な場合、社会のあるべき姿のビジョンが問われる場合などには、市民を含む多様な立場の人も影響調査や意思決定のプロセスに参加する、という取り組みが広まりつつあります。

こうした考え方は、第4期科学技術基本計画では、『社会とともに創り進める政策』の実現」という形で、今後の科学技術政策の基本方針として掲げられています。またよく知ら

れた具体例としては、東日本大震災・原発事故後のエネルギー・環境政策の見直しに伴い、2012年にパブリックコメント、意見聴取会、討論型世論調査を行った「エネルギー・環境の選択肢に関する国民的議論」があげられます。こうした取り組みは今後も継続し、規模も国レベルだけでなく、地域レベルへと広がっていく可能性があります。

そこで課題となるのは、実践の担い手のサポートです。仮に誰かが何か新しい参加型実践をしようとした場合、こうした取り組みは、日本ではまだ数が限られている上、多くは社会実験として行われているため、参照できる情報へのアクセスが容易ではありません。また情報にアクセスできたとしても、それが必ずしも自分の目的に合致した参照事例や手法であるとは限りません。実践者の裾野を広げるためにも、また各実践の質を高めるためにも、実践しようとする人に対する過去の実践に関する情報提供は不可欠です。

そこで「でこなび」では、過去に行われた事例や手法を一覧し、比較しながら閲覧できるようにしました。検索機能を用いて、絞り込みもできます。そして、ワンクリックで各事例や手法の説明と、詳細情報へのリンクを閲覧することができます。これらにより、各自の目的に合った参照事例や手法に関する情報へのアクセスの改善が期待されます。

2.2 研究者のサポート

こうした科学技術政策への市民の関与（Public Engagement）を実施するモチベーションは、規範的（normative）、手段的（instrumental）、実質的（substantive）という3つに分けられています。規範的モチベーションでは、対話は健全な民主主義の重要な構成要素であり、市民の関与は正しい行いである、ということが強調されます。手段的モチベーションでは、市民の関与が特定の利害に資することが強調されます。その利害には、例えば、政府が科学に対する信頼を構築したり、政府の能力に対する評判をコントロールしたりすることがあげられます。実質的モチベーションでは、市民の関与がより社会的に頑健な科学技術上の解決策を創造し、意思決定の質を向上することが強調されます。

しかし、実際に市民の関与が社会に与える効果について、研究で示すことは、様々な理由により困難です。例えば、そもそも社会全体が複雑なため、実践と社会変化との因果関係が不明確ですし、市民参加の効果がいつ出るかも分かりません。仮に社会実験に近いアプローチをとったとしても、同じ条件で比較実験することができない上、現場やイシューと結びつきの強い実験を組もうとすれば実施コストが高くなり、また参加者や社会を深く巻き込む必要があるため、失敗が許されず思い切った実験が組めません。一方で、結びつきの浅い実験であれば、本来、社会で市民関与が必要とされる状況からかけ離れてしまい、社会に与えられる影響が正しく再現されているとは言い難くなります。

こうした困難さのため、その効果の多くは理念的に示されるにとどまっています。特に日本は、まだ取り組みを始めたばかりで参考のできる事例が少ない上に、情報も分散している

ため、海外の事例や研究に基づいて検討せざるを得ない部分もあります。しかし、政治・経済・社会のシステム、文化や国民性、人口構成、抱えている社会問題などが異なるため、海外の知見を日本にそのまま当てはめることには限界があります。市民参加が、現代の日本においても有益かどうかは、別途検証をしていく必要があるのです。

こうした研究上の課題を克服するためには、それぞれの事例を記録し、分析することがまず重要ですが、さらに、それを比較可能な形にして、複数事例を対象としたメタ分析を行い、似た事例の持つ傾向性を把握していくアプローチが求められます。その際、「でこなび」は、事例を蓄積するプラットフォームとして機能することが期待されます。

3. 設計コンセプト

3.1 らくらく検索

「でこなび」では、皆さまの実践の参考となる事例や、そこで使われた手法を、より幅広く、より手軽に検索できます。グルメ情報サイトと同じように、おおまかに予算・時間・目的などを選ぶだけです。「参加型手法に興味はあるけど難しそう」という初めて実践をする方を対象につくられていますので、安心してご利用下さい。

3.2 人と人をつなげる

事例や手法に関して、本当に知りたいときは、実践した人に相談するのが一番です。そこで「でこなび」では、適切な参考事例や相談相手を手軽に見つけることを重視し、一覧性を高めるため、掲載する情報をコンパクトにまとめました。このことにより、運営コストも抑えられています。

3.3 みんなで育てる

「でこなび」は、皆さまがなされた実践を登録して頂くことにより、より充実したものへと育っていきます。「実践結果を広く公開したい」、「次に参加型手法を実践する人のために役に立ちたい」という方は、「情報提供のお願い」ページから、所定の項目を入力することで「でこなび」への登録を、簡単に申し込むことができます。

4. コンテンツ

コンテンツは「参加型実践事例集」「参加型手法用語集」「リンク集」に分けられます。い

ずれも右上のアイコンからアクセスすることができます。

4.1 参加型実践事例集

事例一覧画面（図2）

参加型実践事例集は表形式（図2）で表示されます。この表は、行タイトルの「事例タイトル」「分野」「開催地域」「開催年」「主たる参加型手法」²⁾をクリックすることで、それぞれの項目で並べ替えることができます（図2-a）。

事例タイトル	分野	開催地域	開催年	主たる参加型手法
ヒトゲノム研究を考えるコンセンサス会議	ライフ	関東	2000年	コンセンサス会議
道伝子結核えん作物を考えるコンセンサス会議	ライフ、社会政策	関東	2000年	コンセンサス会議
安岡川の整備に関するコンセンサス会議	環境、社会政策	関東	2002年	コンセンサス会議
三菱製薬生計画検討会議(円卓会議)	環境	関東	2002年	円卓会議
市民会議「食ノ農のままと道伝子結核えん作物」	ライフ、環境、社会政策	関東	2004年	市民パネル会議
三菱製薬の未来を考えるシナリオワークショップ	環境、社会政策	関東	2003年	シナリオ
市民が創る循環型社会フォーラム：スークホルダー会議	環境、社会政策	関東	2003年	スークホルダー会議
市民が創る循環型社会フォーラム：市民パネル会議	環境、社会政策	関東	2004年	市民パネル会議
市民討議会	その他、社会政策	関東	2005年	ファンディングセル
コンセンサス会議-歴史的証言に基づくヒロシマ平和コンセンサスの試み	その他	国外	2005年	コンセンサス会議
徳島県北条三島町交通安全安全対策検討委員会	その他、社会政策	中国、四国	2006年	コンセンサス・ビルディング
市民が考える脱炭・脱原発・脱原発-専門家との対話を通して-	ライフ	関東	2006年	ダイアログ
地球温暖化問題に関する討議型世論調査	環境	関東	2006年	討議型世論
道伝子結核えん作物の産地について道民が考える「コンセンサス会議」	ライフ、環境、社会政策	北海道	2006年	コンセンサス会議
小型家電を考える市民の会議	環境、社会政策、製品技術	東北	2007年	コンセンサス会議、シナリオワークショップ
ナオライ(ワールフ・インタビュー)	アート/材料	北海道	2008年	フォカスグループ
ナオライ(サイエンス・カフェ)	アート/材料	北海道	2008年	サイエンスカフェ
ナオライ(ミニ-コンセンサス会議)	アート/材料	北海道	2008年	コンセンサス会議
World Wide Views in JAPAN ~日本からのメッセージ：地球温暖化を考える~	環境	関西	2009年	討議型世論
歌イ力数楽円卓会議2010	エンタテインメント、環境、社会政策	関東	2010年	円卓会議

図2 事例一覧画面

それぞれの事例のタイトルをクリックすることで、各事例の詳細画面（後述）に移動します（図2-b）。また分野（図2-c）、開催地域（図2-d）、開催年（図2-e）、主たる参加型手法（図2-f）をクリックすることで、クリックした項目に合致する事例のみに絞り込んで、表示することができます。

事例詳細画面（図3）

「でこなび」に書かれている内容は、基本的には、すでに公開されている情報に基づいています。そのため、記述の詳細さや書かれている内容が事例によって異なります。事例詳細は、表1の項目について書かれています。

表1 事例詳細項目

項目	内容
何するの？	活動の概要やスケジュールなど
どういうときに使うの？（目的）	開催趣旨や目的、背景など
参加者は誰？	参加者の属性や集め方など
開催費用は？（資金源）	開催費用や資金源など
時間は？	準備期間や実施期間など
参考文献	事例詳細の記述を引用した資料
もっと情報がほしい場合は？	HPや報告書など、事例を知る上で有効な情報源

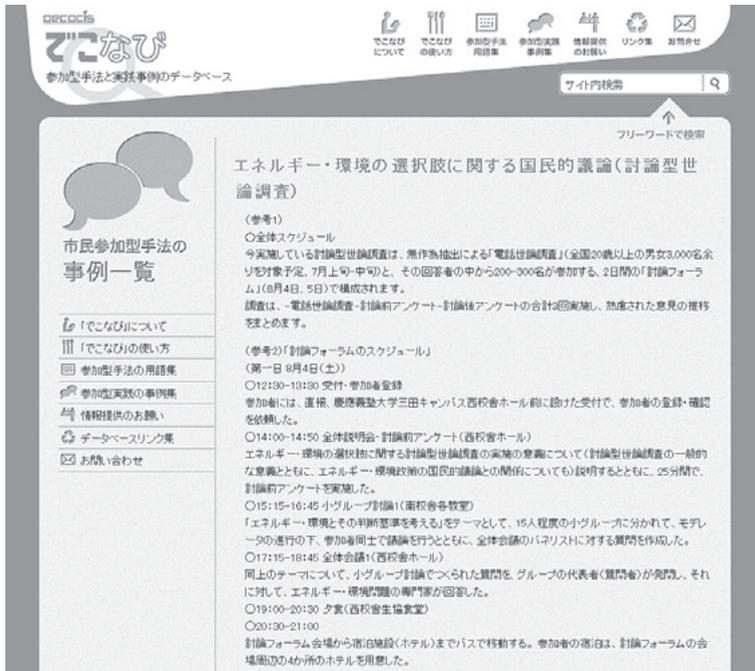


図3 事例詳細画面

4.2 参加型手法用語集

用語一覧画面

参加型手法用語集も表形式（図4）で表示され、用語とその概要が表示されます。「事例一覧画面」と同様に列をクリックすることで、「用語タイトル」（あいうえお順）で並べ替えることができます³⁾。また各用語をクリックすることで、その詳細ページに移動します。

用語詳細画面

用語の詳細に関しては、共通して書かれている決まった項目はありません。ただし、用語のうち「手法」に関するものは、事例詳細と同じ項目を用いて記述しています。また手法に

参加型手法の用語集	
用語タイトル	概要
模擬コンセンサス会議	大学の中に、教育目的などから模擬コンセンサス会議と名乗った実践がある。 目次へ
ディープ・ダイアログ Deep Dialogue	〈文獻1〉市民レベルは、関連する分野の多様な専門家から基本的な情報提供を受け、問題への理解を深めます。そして、市民から専門家に対して疑問点や不安な点などを疑問として投げかけたりして、専門家との対話、市民は1対1の周士の議論を繰り返して進みます。等々。 目次へ
オープン・スペース・テクノロジー Open Space Technology	会議はコーヒーブル・ワークの場の方が、えては生産的であることから、コーヒーブル・ワークの場つ両い相室縮減、創造性を発揮するために設計された会議手法。... 目次へ
円卓会議 Round Tables	〈文獻1p〉地域住民や市民団体、事業者、行政といった関係者のほか、専門家や、公署によって集められた一部市民などが参加し、おもに地域の重要課題について公開の場で議論を、その結果を向かいの形で政策決定に反映させていく方法。... 目次へ
世論調査 opinion polls, public survey	〈文獻1〉ある社会集団の構成員について世論の動向を明らかにする目的で行なわれる統計的調査。またはその調査手法。... 目次へ
参加型演劇 Participatory Theatre	〈文獻1〉身体の運動と創造性を使って、課題に関する演劇的対話、課題に対する解決策を導入、実行する力を身につける手法。... 目次へ
スークホルダー会議 stakeholder conference	〈文獻1〉議論しようとするテーマの利害関係者や問題当事者がメンバーとなり、多様な意見交換を議論した上で、テーマに対する課題や今後の協働事項をとりまとめる会議手法。 目次へ
フューチャーサーチ Future Workshop, Future Search	〈文獻1〉共有する目標を達成して、それを実現するための行動プランを考える会議手法。過去の共有、現状分析、将来シナリオの作成、共有ビジョンの精査、行動計画の作成という一連の流れで実施する。 目次へ
コンセンサス・ビルディング Consensus Building Dialogue	〈文獻1〉向かいの政策実行に対して、利害関係者の代表者が第三者の支援を受け、会議の場で話し合い、参加者全員が合意を達成する道徳的対話による合意形成手法。 目次へ
サイエンスカフェ science cafe	〈文獻1〉科学の専門家と一般市民が、喫茶店など身近な場所でもコーヒー等をお供しながら、科学に関する双方のコミュニケーションを図る。一時的には、講演者(科学者)が話題提供を行い、その後一般市民と自由に議論を行う。... 目次へ
プランニング・フォーリアル Planning for real	地域の地区または構型を作り、住民が当該地域の「良いところ」「悪いところ」「改善のためのアイデア」を2対戦した特徴カードを地区または構型上に置くことにより、住民が考える地域の特徴、議論の経緯を記録していくための手法。... 目次へ
デモックス Democs: Deliberative Meeting Organized by Citizens	〈文獻1〉カードゲームを使った意思決定のツールであり、少人数グループで実施することにより、難い公共政策の課題を話し合いながら学習し、意見も相対し、表出することも可能にする参加手法。 目次へ
熟慮型投票 Deliberative Polling	〈文獻1〉世論のための資料や専門家から十分な情報提供を受け、小グループと全体会議でじっくりと討論した後に、再度、投票を行って意見や投票の変化を見えるという社会実験です。 目次へ
市民パネル会議 Citizens' Panels	一定の手続きによって抽出された市民のグループが、特定の課題に関して、専門家の意見を聴取し、議論を行い、市民の意見をとりまとめるもの。 目次へ
ワールドカフェ the world cafe	メンバーの組み合わせを変えながら、4〜6人単位の小グループで話し合いを続け、最後に全体会議を行います。... 目次へ

図4 用語一覧画面

ついで、ページの一番下に常にリンクが表示されており(図5)、クリックすることで手法の説明と適用事例を併せて表示できます。

主たる参加型手法

[討議型世論調査](#)
[市民/住民陪審](#)
[市民パネル会議](#)
[参加型演劇](#)
[円卓会議](#)
[世論調査](#)
[ワールドカフェ](#)
[プランニング・フォーリアル](#)
[プランニングセル](#)
[フューチャーサーチ](#)
[フォーカスグループ](#)
[パブリックコメント](#)
[デルファイ法](#)
[デモックス](#)
[ディープ・ダイアログ](#)
[スークホルダー会議](#)
[シャレットワークショップ](#)
[シナリオ・ワークショップ](#)
[サイエンスカフェ](#)
[コンセンサス会議](#)
[コンセンサス・ビルディング](#)
[オープン・スペース・テクノロジー](#)
 その他

図5 主たる参加型手法一覧

4.3 リンク集

リンク集は「でこなび」をつくる際に参考にした、国内外のデータベースや手法マニュアルなどが掲載されています。海外の事例を調べる場合や、手法についてより詳しく知りたい場合には、こちらをご利用下さい。

5. 「らくらく検索」の使い方

5.1 検索画面 (図6)

「らくらく検索」は、常にページの下部に表示されています。

らくらく検索!

市民参加型手法の実践事例を右の諸条件で検索できます。希望する項目を選択して下さい。複数項目の同時選択も可能です。

分野	<input type="checkbox"/> 情報通信 <input type="checkbox"/> 製造技術 <input type="checkbox"/> ナノ材料 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> エネルギー <input type="checkbox"/> 社会基盤 <input type="checkbox"/> ライフ <input type="checkbox"/> フロンティア <input type="checkbox"/> その他
開催場所	<input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input type="checkbox"/> 北信越 <input type="checkbox"/> 関東 <input type="checkbox"/> 東海 <input type="checkbox"/> 関西 <input type="checkbox"/> 中国・四国 <input type="checkbox"/> 九州・沖縄 <input type="checkbox"/> 国外
開催年	<input type="checkbox"/> 2010年代 <input type="checkbox"/> 2000年代 <input type="checkbox"/> 1980年代 <input type="checkbox"/> 1980年代 <input type="checkbox"/> 1979年以前
イベント期間	<input type="checkbox"/> 数時間 <input type="checkbox"/> 一日 <input type="checkbox"/> 数日 <input type="checkbox"/> 数週末 <input type="checkbox"/> それ以上
予算額	<input type="checkbox"/> 1000万円以上 <input type="checkbox"/> 100万~1000万円 <input type="checkbox"/> 100万円以下

Q らくらく検索!

図6 「らくらく検索」画面

検索項目は、分野、開催場所、開催年代、イベント期間、予算額となります。分野については、科学技術振興機構が運営するサイエンスポータルイベント情報⁴⁾にならひ、第3期科学技術基本計画の「主な研究開発課題」に基づいています。

5.2 手順

グルメ情報サイトと同じように、予算や時間の条件を入力すれば、マッチした手法や事例を検索できます。しかし実際に参加型手法を運営するには、実際に実施したことのある人の話を聴くこと、その人が書いたものを読むことが一番大事です。上述したように「でこなび」は窓口として、詳細情報のある場所に、あなたをナビゲートします。

【STEP1】: 条件を入力する

「らくらく検索」画面で、あなたが実践したいと思っているイベントの予算や時間、あるいは参考にしたい事例の分野や実施地域にチェックを入れます。特に条件が決まっていなくても、どんなものがあるのか知りたい人は、右上のアイコンから「参加型実践事例集」、あるいは「らくらく検索」の下の「主たる参加型手法一覧」をご覧ください。

【STEP2】: 検索して、リストから気になるものを選ぶ

条件を入力したら、「らくらく検索！」ボタンをクリックします。すると条件に合致する

手法や事例がリストアップされます。そこにある概要をみて、気になるものを見つけます。4節で触れたように、リストはいくつかの項目で並べ替えもできます。

【STEP3】：詳細情報を入力する

リストから気になるものをクリックすると、詳細ページが開きます。実践してみようと思ったら、「もっと情報がほしい場合は？」などを参考にして、報告書を読んだり、実践者のお話を伺ったりしてみてください。

その他、自由な発想で、便利な使い方を発見して下さい。

6. 情報提供ページ (図7)

「でこなび」は、皆さまから手法や事例に関する情報を頂くことで、成長していきます。「新しい手法を開発した」や「日本では知られていない手法を知っている」、「新しい実践をした」という方は、ぜひ情報をお寄せ下さい。右上の「情報提供のお願い」をクリックすると、情報提供ページに移動します (図7)。

【入力項目】

- ・ お名前 (非公開)
- ・ メールアドレス (非公開)
- ・ イベント主催者名
- ・ イベントタイトル
- ・ イベントの目的
- ・ 分野
- ・ イベントスケジュール
- ・ 準備期間
- ・ イベント参加者
- ・ 予算額
- ・ 予算源

※情報提供ご送信フォーム

あなたのお名前* (情報非公開)	<input type="text"/>
メールアドレス* (情報非公開)	<input type="text"/>
イベント主催者名* (団体名)	<input type="text"/>
イベントタイトル* (自由記述)	<input type="text"/>
イベントの目的* (自由記述)	<input type="text"/>
分野* (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 情報通信 <input type="checkbox"/> 製造技術 <input type="checkbox"/> ナノ/材料 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> エネルギー <input type="checkbox"/> 社会基盤 <input type="checkbox"/> ライフ <input type="checkbox"/> フロンティア <input type="checkbox"/> その他: <input type="text"/> (自由記述)
イベントスケジュール* (開催年月日/期間、場所 一日の主な流れなど)	<input type="text"/>
準備期間 (一つ選択)	<input type="radio"/> 1年以上 <input type="radio"/> 1年から半年 <input type="radio"/> 半年から3ヶ月 <input type="radio"/> 3ヶ月から1ヶ月 <input type="radio"/> 1ヶ月未満
イベント参加者* (属性、人数、集め方)	<input type="text"/>
予算額* (一つ選択)	<input type="radio"/> 100万円以上 <input type="radio"/> 100万～1000万円 <input type="radio"/> 100万円以下
予算源 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 国/自治体 <input type="checkbox"/> 企業からの寄付 <input type="checkbox"/> 市民からの寄付 <input type="checkbox"/> 非営利団体等 <input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 自己資金(運営費交付金等も含む) <input type="checkbox"/> その他: <input type="text"/> (自由記述)
参考文献・資料* (報告書、HPなど)	<input type="text"/>
その他 (自由記述)	<input type="text"/>
*は入力必須項目です。	<input type="button" value="入力内容を送信する"/> <input type="button" value="リセット"/>

図7 情報提供ご送信フォーム

- ・参考文献・資料
- ・その他

上記について、入力フォーム（図7）に従ってご入力下さい。

皆さまからお寄せいただいた情報は、基本的にはそのまま転載いたしますが、情報を補足するために連絡をさせて頂くこともあります。また「でこナビ」の趣旨に馴染まない情報や、明らかな誤り（誤字など）が含まれる情報に関しましては、運営側の責任で修正をしたり、掲載を見送ったりすることがあります。また、少人数での運営が見込まれておりますので、掲載が遅れることがあります。

7. 今後の展開

7.1 「でこナビ」サイトの改善

「でこナビ」は、まだ公開されたばかりであり、情報の豊かさも使い勝手も、まだまだ発展していく必要があると考えています。積極的にご利用頂き、皆さまからの「でこナビ」に対する改善のご提案をお待ちしております。右上アイコンの「お問い合わせ」から、簡単に送信できるようになっています。

7.2 事例や用語の充実、整理

6節で書いたように、「でこナビ」は皆さまからの情報提供によって成長していきます。参加型テクノロジーアセスメントや科学コミュニケーションの実践者／団体のネットワーク、あるいは、そういった活動を支援している助成団体など、多くの人に広報や報告の1つのメディアとしてご利用頂くとともに、情報提供をお願いしていきます。

また参加型実践や科学コミュニケーションに関する、大学の教育プログラムや講義などと連携することも考えています。例えば、受講生にフィールドワークとして、参加型実践の現場に行ってもらい、その参加報告として「でこナビ」に事例を登録したり、調査活動の一環として実践者のインタビュー調査をしたりして、登録事例の数や各事例の記述の充実度を増していくことができます。同様に、用語集の項目を、座学と連動させてレポートにより充実させていくことも考えられます。受講生にとっては、他の人に分かりやすく書くトレーニングになり、さらに、レポートを教員だけが読むのではなく、「でこナビ」を通じて多くの人に役立ててもらえることは、1つのモチベーションになるでしょう。

将来の理想像として、こうしたインターネット上での情報の集積に加え、例えば、掲載事例の報告書を運営事務局でアーカイブしていき、問い合わせに応じて報告書のコピーを配布するようなサービスが考えられます。また事例によっては、報告書をPDF化して、ダウン

ロードできるような仕組みも可能かもしれません。そこに、もし実践者対象のインタビュー調査なども連動できれば、報告書には掲載されない運営上のノウハウや苦悩なども蓄積していくことができます。

こうして集められた情報を、どのように分類・整理するのか、どのキーワードと結びつけるのかは、まだ手探りで行っているのが現状です。例えば、開催費用について、仮に法人職員が主催した場合、その人件費をどう計算するのかであるとか、開催期間について、準備期間や報告書作成の期間をどうカウントするのかなど、多くの難しい課題がすでに見つかっています。こうした課題は、利用者の皆さまと協力しながら、より使い勝手の良いものにしていきたいと考えています。

実践に係わる情報を蓄積することの必要性は、情報が膨大になり、手がつけられなくなってから気付くことも少なくありません。「現在は、事例の数が少ないから必要ない」のではなく、事例が少ない今だからこそ、取り組みを始めることが重要だと考えています。

7.3 より多くの人にご利用いただく

参加型実践は、まだ十分に社会に浸透しているとは言えません。それは、効果を否定された結果というわけではなく、1つの選択肢として、より多くの人に提示できていないためだと考えられます。しかし、1つの団体や1つのイベントでの発信には限界があります。発信できる内容や頻度が限られることで、いつしか忘れ去られることも考えられます。

そこで、このデータベースを使って、参加型実践という仕組みそのものを、より多くの人に知ってもらうということも重要です。例えば、過去の優れた事例について、定期的に、あるいは社会のニュースに連動して、Twitter等を用いて自動発信することもできるでしょう。あるいは、現在進行中のプロジェクトについて、担当者の生の声を掲載することも考えられます。それは実践者にとっては、イベントの広報であったり、透明性を高めるための手段であったりします。こうした実践者の姿を見せることは、「人と人をつなげる」という「でこなび」の設計コンセプトに合致します。将来の実践者が、事例の詳細について問い合わせる際の心理的障壁も下げられるでしょう。この発展として、ノウハウの共有やオンライン相談室なども考えられます。

さらに東日本大震災だけでなく、高齢化や少子化への取り組みなど、日本は課題先進国として海外から大きな関心が寄せられています。その点で、日本がどのような取り組みをしているのかについて、海外に発信していくことも視野に入れる必要があります。そのためには、運営組織や事例提供者のネットワークも拡充が欠かせません。

そして何より、まず第一歩として、あなたに「でこなび」<http://decocis.net/navi/>にアクセスして頂きたいと思っています。

注

- 1) 「でこナビ」は、もともと科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）における「科学技術と人間」研究開発領域「科学技術と社会の相互作用」研究開発プログラムの「市民と専門家の熟議と協働のための手法とインタフェース組織の開発（Deliberation and Cooperation between Citizens and Scientists：DeCoCiS（でこしす）」研究開発プロジェクト（<http://decocis.net/>）の一環として開発されました。また2012年度は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターからサポートを受けました。
- 2) 分野や開催地域に含まれる項目については、5節をご覧ください。
- 3) ただし、漢字の読みを用いた並べ替えについては、まだ対応していません。
- 4) <http://scienceportal.jp/events/>